

# 水子の供養

大正大学教授 玉山成元

先日嫁にやった娘さんを連れて、檀家の奥様がやってきた。ふっくらとした可愛い娘さんだったが、やせ細り顔色が極めて悪い。彼女は出産後出血がとまらず、方々のお医者さんに診察してもらったが、一向によくならなかった。思いあまつた娘さんは、知人のすすめで易者に見てもらった。すると流産したお子様の供養を怠っているから病気になったので、早くお寺に行つて祈禱してもらえといわれた。そこで実家の母親に相談し、早速母親と一緒に拙寺をたずね「祈禱をしてほしい」という。

私は今まで祈禱などしたことがない。大体世間の名医が治せない難病を、私の祈禱で治るわけがない。私は即座にことわった。すると「せっかく来たのだから、祈禱ができれば、せめて早世した水子にお経をたむけ、お塔婆を書いて供養してくれ」という。乞われるままに私は水子の法事をした。

お経のすんだのち、私は次のように話してやった。病気を治すのはお医者さま

である。墓参をすませたら、すぐにお医者さまに行つて診察してもらいなさい。早く健康をとりもどして、お子様の分まで活躍をすることが、早世したお子様に對する何よりのご供養であることを告げた。

一か月後、二人はまたやってきた。心なしか娘さんの頬には赤味がさし、元氣そうに見えた。そして今日はお札にきたという。というのは、先日法事でお焼香をしたとき、私の肩のあたりから彼女の胸に何かピリッと電氣のようなものが走った。びっくりしたが、その後、急に体が軽くなり帰宅した。その後、出血も止つて元気に動けるようになったのでお医者さまには通っていないという。どうしてよくなったのか私にはわからない。いまでも不思議に思っている。

江戸時代の中頃、まだ誰も水子の靈を氣にしないころ、その供養を行ったのは、増上寺三十六世祐天上人である。『祐天大僧正利益記』には、その様子がくわしく記されている。元禄頃であろうか、江戸

中橋に高野新右衛門という町人がいた。彼はよしという下女を孕ませてしまった。そこで本妻の怒りを恐れ、よしを実家に帰し、墮胎薬を与えて子を墮せうとした。ところが、よしはこの薬毒にあたって死んでしまった。両親はどうすることもできず、かわいそうなよしを花岳院に葬った。

新右衛門には、みよという出もどりの娘がいた。しばらくすると彼女は病氣にかかつて寝込んでしまった。するとこの「みよ」に死んだ「よし」の怨靈がとりついた。そして、みよは新右衛門が、よしと密通の上、墮胎薬を与えられて苦しみ死んだこと、しかもその後、何の回向もしてくれないといつて泣き叫んだ。新右衛門はこれを恐れて、方々の祈願所で怨靈退散の祈願をしたが利きめはなかった。ところが、よしの怨靈は祐天上人に回向してもらいたいと自から口にした。新右衛門はさっそく菩提寺花岳院に頼んで祐天上人をお願いした。祐天上人はまず怨靈に下女、よしの言い分を聞いた。

# 水子の供養

大正大学教授 玉山成元



すると、よしは新右衛門を恨んでタタリをなすものは自分ばかりでなく、ほかに十五人もいることを告げた。それらは皆墮胎した子供で、その子の母の名前や住所まで正確にいった。さすがの新右衛門もこれを聞いて怨霊の恐ろしさと自分の面目なさに黙ってしまった。祐天上人は新右衛門に十七日の別時念仏をおこなわせ、よしはじめ十五人の水子の霊に法名を与えて、ねんごろに弔い、それぞれを成仏させてやった。この法名は、今でも花岳院の『過去帳』に記されていると『祐

天大僧正利益記』には書かれている。

この話の特色は、水子供養の必要性を説いたところにある。江戸では墮胎によって死んでいった水子が沢山いる。いや、当時の日本には多かったと思われる。しかもその水子たちは、死後仏になるという考え方はなかった。そうした世相の中で祐天上人は、単に女性としての被害ばかりでなく、当然生れてくるはずの人が中絶されて死んでゆく水子の立場をあれみ、成仏させようと回向を続けていった。それは当時として目をみはる行動であつたに違いない。井原西鶴

が水子の幻想を書き、松尾芭蕉が捨子の野ざらしを見た同じ時代に、祐天上人は、十五人の水子に法名を与えて追善回向を行っていた。そこにはすでに今日的な考え方があつたと高田衛氏も指摘し、『江戸の救済者』祐天上人の慈悲に満ちた行動をたたえている。最近、水子供養をする人々

は多くなり、方々の寺院には水子地蔵が安置され、参詣者でにぎわっている。大本山増上寺にも沢山の水子地蔵が安置され、カラカラとまわる風車を手にした可愛いお地蔵様がずらりと並んでいる。参詣者は裏に名を記したこのお地蔵さまを通して自分の子供を思い出しているのである。地蔵さまの前に車や船のオモチャを供え、長時間お地蔵さまに語りかけている。そこには永久に変わらぬ親子の強い愛がみられる。ここにも、そのきっかけをつくった祐天上人の尊い足跡が今に生きている。